

	NPO 法人 京都観光文化を考える会 <b>都草だより</b>	第39号 発行人：小松香織 編集人：西野嘉一 発行所：京都市上京区 下立売通新町西入 京都府庁旧本館2階 電話：075-451-8146
---	------------------------------------	--

..... ((( 都草 創立 10 周年を迎えて 記念特別号 ))) .....

## ■ — 10 周年記念式典 理事長挨拶より —



都草は 10 年経った今、会員一人一人が情熱と好奇心をパワーに変えて自由な雰囲気の中、自己実現の場としていきいきと活動している本当に魅力ある組織になりました。お陰様で現在の会員数は 375 名となり、京都検定 1 級合格者が 133 名ということも大きな特徴になっております。これまで奮闘、牽引してこられた坂本前理事長はじめ役員や会員の皆様、その他数えきれない多くの方々の深いご理解とお力添えの賜物とここに心より感謝申し上げます。

平成 19 年の都草発足以来、歴史探訪会、研究発表会、文化交流部会、京都検定対策委員会、おでかけ講座など都草の活動範囲もずいぶん広がりました。なかでも創立当初からの美化活動は既に 100 回を超え、去年は京都御所でも実施させていただきました。毎週日曜日開催の京都御苑歴史散策ツアーは 3 年を越え、大船鉾のボランティアも丸 10 年が経過しました。そして都草は今年、今後 5 年、10 年先を考え新たに「都草 わくわく倶楽部」と「京（みやこ）のこと語り隊」という二つの事業を発足させました。これらの新しい活動は、大切にじっくり、確実に紡いで参りたいと思っております。

今後も引き続き会員同志がお互いを尊重し、高め合い、井上満郎先生のお言葉であります‘自らの社会化’にも更に磨きをかけ、「京都の都草」「みやこみやこの都草」として、地道に頑張っ参りたいと思っております。皆様には今後とも一層のお力添えを賜りますよう心よりお願い申し上げます。(理事長 小松 香織)

## ■ — 10 周年にあたって（みやこぐさ回想） —

“千年の都”に住んでいるせいか、10 年という歳月は一瞬のことものように思われるが、しかし人間の一生にとって 10 年は決して短い時間ではない。

京都検定合格者の方々の組織化を思い立って、林寛治氏（現都草監事）に相談したのは平成 18 年 12 月のことであった。もちろん当初は「都草」という名称はなく、「京都検定合格者の会」もしくは「京を語る会」と言っていた。二人が呼びかけ人となり、翌年 1 月 28 日に「京都検定を考える会」を開催し、その後 3 回の「準備会」を経て、同年 4 月 29 日には早くも「京都観光文化を考える会・都草」の設立総会が行われた。それに先立ち、林寛治氏が京都新聞社の知人に都草への取材を依頼され、仲屋聡記者が私を訪ねて来られた。（氏とは今でもお付き合いがあり、10 月 8 日の「都草創立 10 周年記念式典」には来賓として出席いただいた）

設立総会直前の 4 月 26 日、京都新聞夕刊一面のトップに都草を紹介する記事が掲載され（『都草 10 年の軌跡』参照）、さらに翌日には NHK の夕方 6 時のニュース番組に私が出演した。そのために、問合せ、資料請求、入会申込等の電話や手紙が自宅に多数届いた。それ以後私は多くの方々と出会うことになる。現理事長小松香織氏もその中の一人で、都草設立翌年の 6 月 8 日、京都御苑内「拾翠亭」で行われた都草主催のお茶会の席であった。

先日の記念式典では、都草創立時のメンバーが久々に顔をそろえた。私にとって、都草に関わりながらの 10 年間は、それらの仲間達とともに過ごした楽しく豊かな日々であった。（特別顧問 坂本 孝志）



## ◆◇ 10 周年記念式典・祝賀会を終えて ◇◆



宗教学者 山折 哲雄 先生



京都市長 門川 大作氏



会員 木村哲夫、安田富枝、藤井久美子

皆様による祇園囃子で会場は一気に盛り上がり、熱気を感じながら和やかなひと時を過ごすことができました。

今回の記念式典・祝賀会を開催するにあたり、実行委員の一人として、都草が何かをしようとする時には、惜しみなくお力添えをいただける協力者がいて下さることに喜びと感謝の気持ちを一段と強く感じました。このご縁を大切に、何よりも一人一人が楽しめる会へと今後ますます発展していくことが出来るように切に願いながら、今後も頑張って参りたいと思います。(事務局長 藤井 久美子)

## 四条町大船鉾保存会の皆様



10月8日は、暦の上では野山が次第に秋色へと移り変わり、実り多き収穫がなされる寒露にあたります。都草では今年は創立10周年を迎え、このよき日に記念式典が京都東急ホテルで開催されました。10年ひと昔といいますが、都草にとってのこの10年は勢いもどんどん加速し、止まることを知らない状態で突き進んできた感じがいたします。創立当初より今日まで坂本前理事長を筆頭に活躍されてきた諸先輩のご人徳と熱意が今日の会員数375名を擁する大きな会へと発展した原動力であったと改めて敬意を表します。

8日は11時より宗教学者の山折哲雄先生をお招きし、「京都の魅力と魔力」と題して講演をしていただきました。千年の都ともいわれる京都には、その営みの中に素晴らしい魅力が集積し、それは魔力ともなりうる不思議な力がはたらいっているところである、とのお話はまさに都草に人が引き寄せられる現象を物語っているようです。

式典では、門川大作京都市長よりご祝辞をいただき、大変光栄なことでした。又、都草にとって大切なお客様にも多くご出席いただきました。その後、創立当初より活躍してこられた諸先輩に感謝状と記念品を贈呈しました。その後、10周年記念新規事業として会員の皆様から公募した結果、新たにスタートすることになった「都草わくわく倶楽部」と「京(みやこ)のこと語り隊」の提案者2名の表彰が行われました。これまでの10年を土台にして、さらにこれから先の10年を諸先輩と一緒にあって、若返りも図りながら、新たな二つの事業を立ち上げ、改革も織り交ぜ進んでいくことを決意した次第です。

祝賀会ではご出席くださった皆様と懇親のひと時を楽しみました。そのアトラクションの1つとして都草の活動の中に文化的な要素も今後大いに採り入れていきたいという思いから、嵯峨の清凉寺を舞台とした能「百万」を謡曲と朗読という新たな試みで、木村哲夫、安田富枝、藤井久美子が演じました。引き続き四条町大船鉾保存会の



## ◆◇ 都草設立を振り返って ◇◆



都草設立 10 周年を迎え、あっという間に過ぎた気がします。思い返すと、設立当初にはたびたび理事が集まって、会員のために何が出るのか、また何をすれば役に立てるのかを議論して、手さぐり状態での出発でした。あくまでその原点はボランティア活動が主体でした。

そうこうしている間に、都草の事務所を府庁に移すことが決まり、新事務所での体制はどうしたら合理的に運営が可能かという問題が議論の中心となってきました。新事務所での体制も最初はぎこちないスタートで、日本政策金融公庫からの借入金で家賃を賄っていました。それも次第に解消し、現在の都草へと発展していきました。その大変さは今となっては笑い話に変わっています。(会員 犬飼 利和)

## ◆◇ 都草に入って 2 年 ◇◆

都草にお世話になって丸 2 年経つ。10 周年の歴史を見れば、ホヤホヤに近いニューフェース。入会して感じたのは、何と自由な組織であることかという思いだった。自分の分に従って活動すればよい、こういう集まりが組織として機能しているということは、お世話してくださる人々、周囲で協力している人々の存在がよほどしっかりしているからだろうと思った。その後、研究発表会、歴史探訪会、美化活動等の各行事に参加していくうちに、この会の会員たちが京都好き人間の集まりで、何とスゴイ人達が沢山いることかと驚いた。同時に、会の運営にあたっていただいている人達の心には、何か「楽しむ心」「優しい心」(ハート)が宿っているとも感じられた。美化活動がこの会の象徴であることがそれを表している。

これからも体力に合わせ、楽しく参加させていただきます。よろしく願いいたします。(会員 山下 淑夫)

## ◆◇ 都草の美化活動への思い ◇◆



私は会員になって約 5 年になりますが、入会后初めて参加させていただいたのが真如堂の美化活動でした。会員の方々と全く面識がなく大変不安でしたが、一緒に清掃していくうちにすぐに打ち解けて仲良くさせていただきました。7 月の炎天下での活動は暑くて大変でしたが、作業終了後きれいになった境内を見るととても達成感がありました。さらに、本堂で法話を伺った上、非公開の仏間でお参りさせていただいた際の感動を今もはっきり覚えています。そしてすぐに美化活動部会の運営メンバーに入れていただき、毎月の会議において実施した清掃活動の反省や実施予定の社寺の選定などを和やかな雰囲気で行っています。不安定な天候に悩まされることもありますが、今後とも楽しんで美化活動に励みたいと思います。(会員 奥本 徹夫)

## ◆◇ 都草 この 10 年を振り返って ◇◆

入会して 8 年が過ぎました。京都の文化・歴史・観光を多少でも知り得る機会を作っていただいたことに、まずは感謝申し上げます。京都検定対策委員会に所属し、勉強出来たことは掛け替えのない財産となり有難いことです。特に木造の仏像に触れ合い、私のライフワークを見出せたことは素晴らしいことです。多くの方々にお伝え出来ればと思っております。

歴史を、その場所の過去に思い馳せると、過去の人々の思いが何となく伝わって参ります。それを皆様と共有させていただくことは「これ無上の喜びなり」です。「京都の観光文化を考える会・都草」にこれからも栄光あれ！(会員 伴仲 啓良)

## ◆◇ 10 周年記念祝賀会を終えて ◇◆

今、改めて振り返ってみると、早いタイミングで私の望むことと都草の目的が同源の重みだと気付けたからこそ、ここまで続けられたと。学びえたことを切実に感じ取れ、もろもろの歴史、圧倒的な量だけでなく質が高く緻密に整理されているが故に、果たしてどれほど知識として頭の中に入っているのか悩ましい。ただ、出会い、絆、暖かなつながりは人を引きつけ、歴史探訪、研究発表会、美化活動等々だけではない確かな魅力を感じる事ができた。

都草のおかげで雑草ながらも少し芽吹いたように思う。知人に私なりの案内が出来るようになり嬉しい。次回の約束後、過去の資料に目を通し、忘れていたことの多さに愕然としながらもやはり振り返ることの大切さを痛感。この長い年月を共にさせていただきひとえに感謝の念で胸ふくらみありがたいことだと。理事長はじめ皆様のご努力、ご苦勞を改めて拝聴し感動。唯々感謝申し上げます。(会員 高木 義恵)

## ◆◇ 参加して学ぶことの喜び ◇◆

大村隆清理事にみやこめっせギャラリーでボランティアをしている時にお会いし、入会いたしました。最初に会員の方々の研究発表を拝聴、ガイド研修や歴史探訪に参加、そして先輩の指導を受けふれあい館の研修後、案内業務をするようになりました。来館されるお客様とお話できる機会に恵まれ、お客様からも知恵をいただき充実した時を過ごすことが出来ました。祇園祭の案内はわからないことも多く、先輩に教わり図書館にも通いました。御苑の研修にも参加いたしましたが、砂利道に足をとられ歩行困難のためあきらめたのが残念でした。今は定点での活動しております。皆様の資料や知識から疑問を感じた時は調べ、そして納得できた時の喜び、このような機会を与えて下さったことに感謝しております。(会員 石井 小雪)



## ◆◇ 都草の活動に参加して ◇◆

私が都草を通じて得ることが出来た一番の財産は、各方面で活躍されている方々との新しい出会い。都草ならではの貴重な経験の数々。京都府庁旧本館案内や大船鉾のボランティア。新米の丹波支部会では歴史の奥深さとの出会い。京都検定対策委員会では出題メンバーとして携わる中、問題や解説1つ1つを細かく検討し丁寧に作り上げていく過程を経験。また古文書講座ではいつかは いにしえの手紙等の一端が解読出来ることを楽しみにしています。今後も単なる観光のみでなく、もう一步踏み込んだ形で京都と関わりたいと思います。「京都」というキーワードを介し人と人との有機的な繋がりを広げたいと考えている方々が、更に都草に興味を持たれることを願っています。(会員 井上 かおり)

## ◆◇ 10 周年に思うこと ◇◆

早いもので、都草に参加して 10 年になります。私は、歴史探訪西部会に所属し、また「古事記」の研究発表などで活動しております。10 周年記念式典の挨拶で、小松新理事長が「それぞれの人が自分を発表できる場所として運営していきたい」と言っておられました。まさにその通りだと心から賛同致しました。歴史探訪の企画に参加することや「古事記」の発表をすることは、自分自身を発表することに他なりません。こつこつと勉強してきたことを発表できる場があることは、私達にとって大きな励みとなります。(会員 堂園 光子)